

大阪湾を望む家



(上段) 5連の引き戸を開け放ったリビングの大開口 (下段左) 南側外観。大きな開口から光が漏れ出す (下段右) リビングの見返し。多様な木を使い分けた



大阪湾を望む家は神戸市北部の南向きに開けた標高500mの造成地に建つ、夫婦と子供二人が住むための家である。北から南に下る斜面地形で、2階からの南向きの眺望が非常に良いことがわかったので、そこに家族が集まる空間を配置することにした。アプローチ道路側には開口部を最小限とし、建物の両脇もフェンスと植栽で視界を遮っている。そうすることで、玄関突き当りの階段を上ったときに、初めて大阪湾まで一望する眺望が目の前に広がる仕掛けとした。

エッジを細く尖らせた切妻屋根は日射調整のために南側に大きく張り出している

兵庫県産スギの90ミリ角の垂木を主材とした棟木のない軽やかな山形アーチ架構

水平つなぎ材は上下互い違いにすることで上側の材を目立ちにくくし軽やかな印象を強調する

リビングの幅を5.4m確保し、その両側に納まりきらない部屋は左右に突き出して外観上のアクセントとした

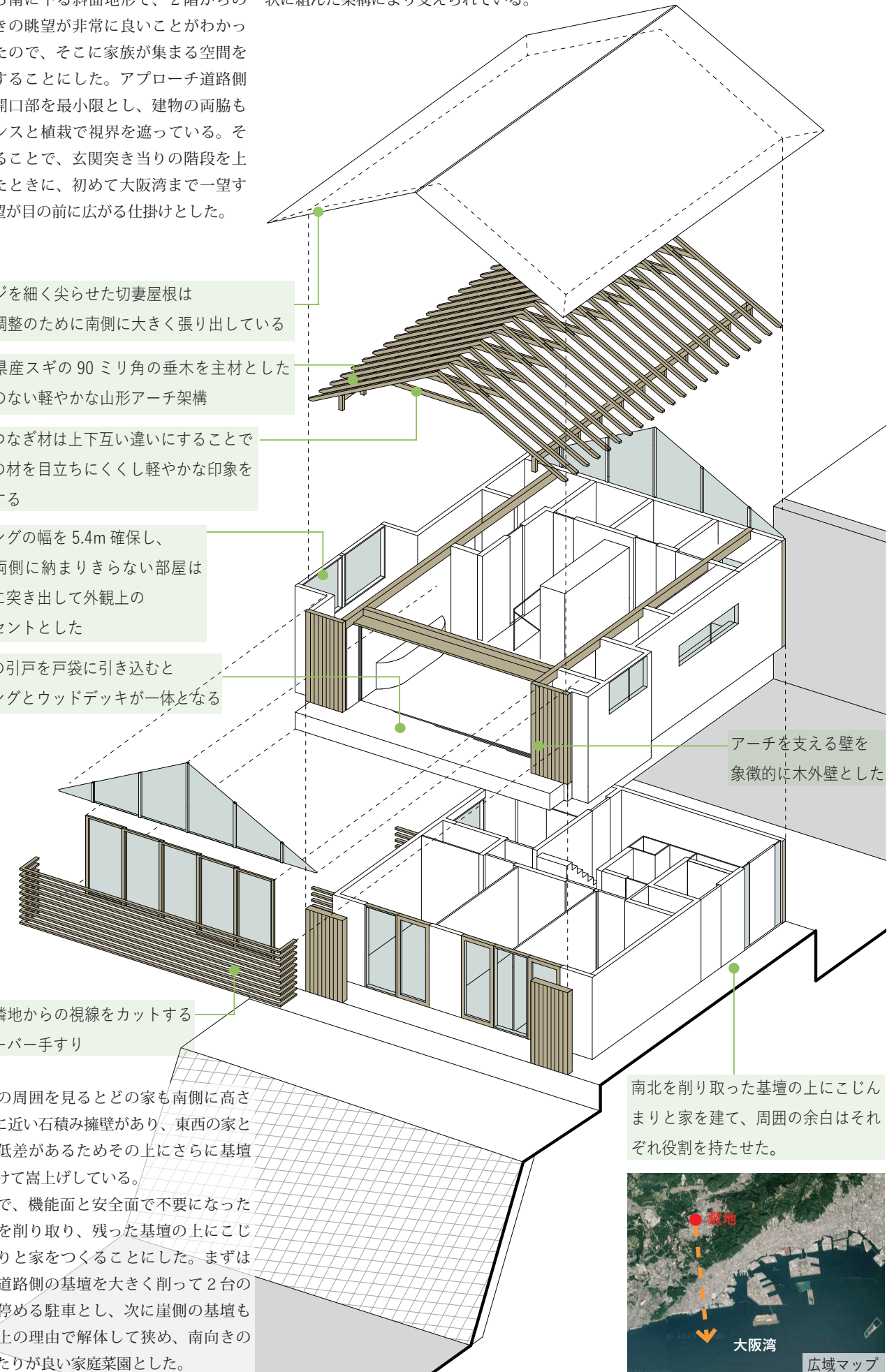
5連の引戸を戸袋に引き込むとリビングとウッドデッキが一体となる

南側隣地からの視線をカットする木ルーバー手すり

敷地の周囲を見るとどの家も南側に高さ4mに近い石積み擁壁があり、東西の家とも高低差があるためその上にさらに基壇を設けて嵩上げしている。そこで、機能面と安全面で不要になった基壇を削り取り、残った基壇の上にこじんまりと家をつくることにした。まずは前面道路側の基壇を大きく削って2台の車を停める駐車とし、次に崖側の基壇も安全上の理由で解体して狭め、南向きの陽当たりが良い家庭菜園とした。

四人家族が在宅時の大部分の時間を過ごす、このキッチンと一体となったリビング・ダイニングの天井は、細いスギ材をアーチ状に組んだ架構により支えられている。

通風経路を確保し、夏は日差しを避けて冬に日光を取り込むことで、できるだけ設備を稼働しなくても快適に過ごせる計画とした。



アーチを支える壁を象徴的に木外壁とした

南北を削り取った基壇の上にこじんまりと家を見て、周囲の余白はそれぞれ役割を持たせた。



広域マップ



書斎1の組立て壁面棚には、カラマツ合板と桧板を使用



壁の構造用ラワン合板と家具のシナ合板のコントラスト



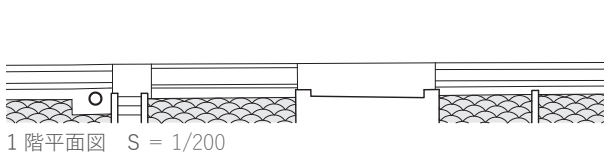
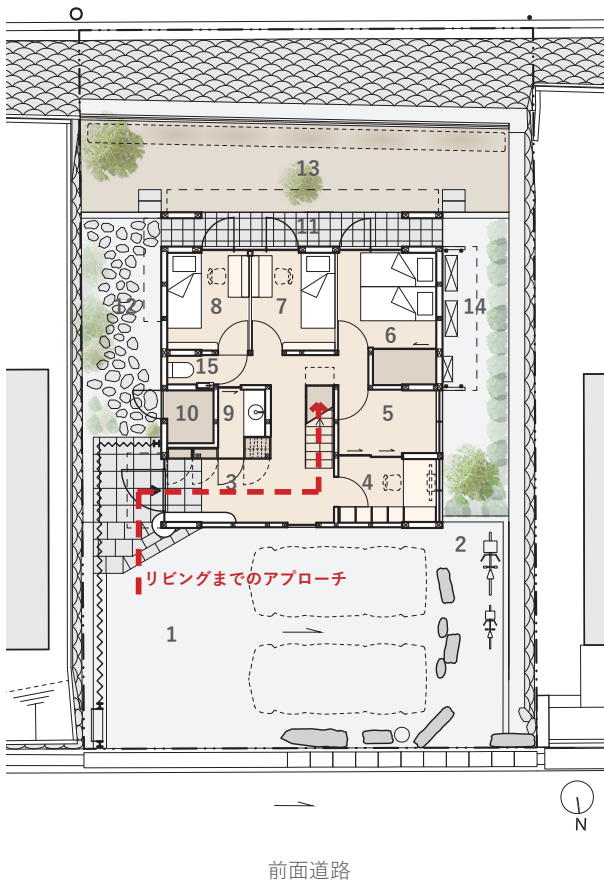
ミニマルな書斎2は白漆喰の壁に北向きの小窓を配置した



北側の天空光を取り込むことでキッチンも明るい



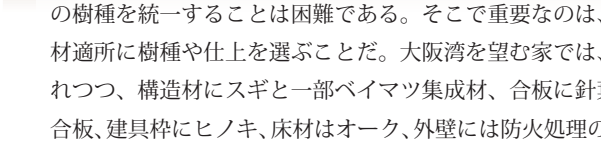
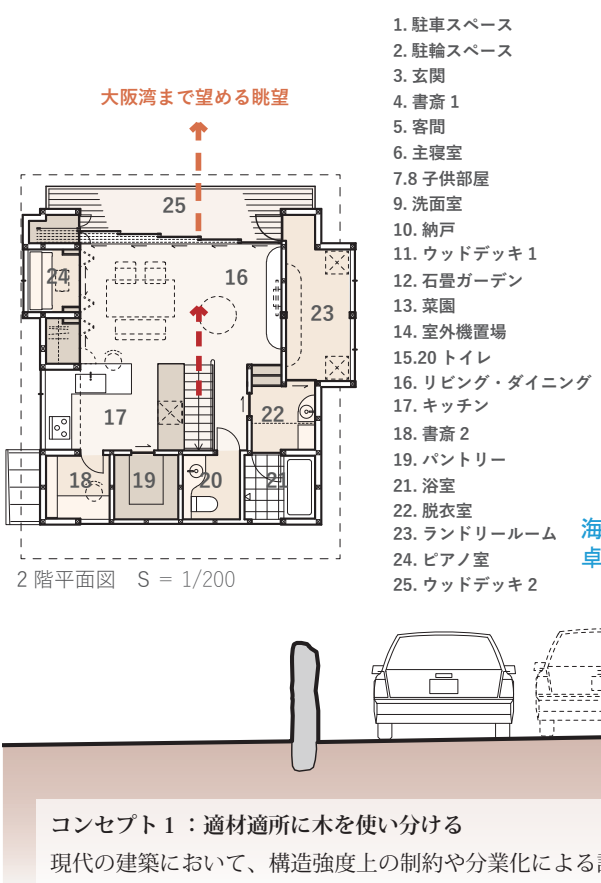
北側外観。駐車場には宅地造成時の名残の岩を再利用



1階平面図 S = 1/200



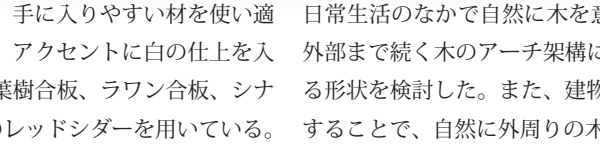
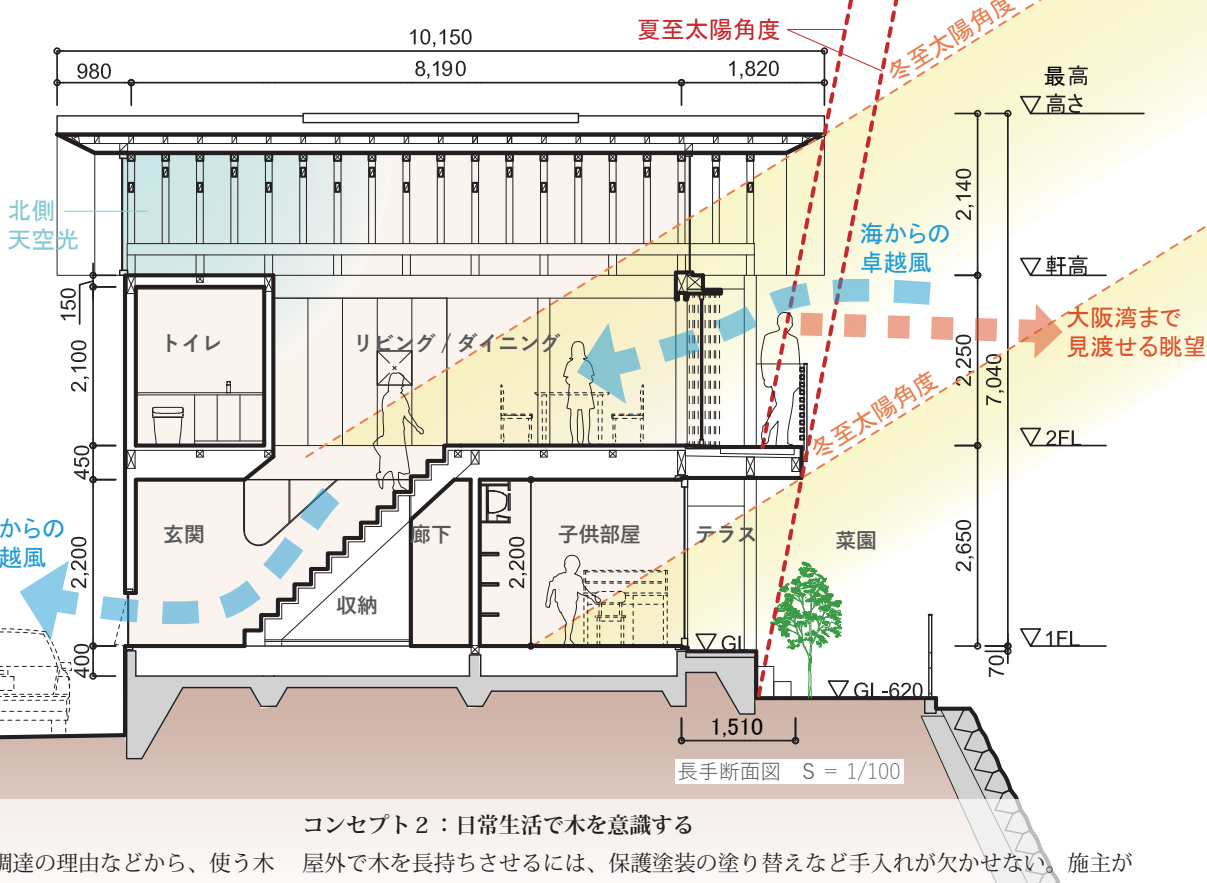
パンチングメタルのフェンスと木の外壁の間から玄関へ



2階平面図 S = 1/200



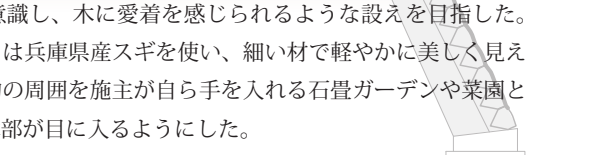
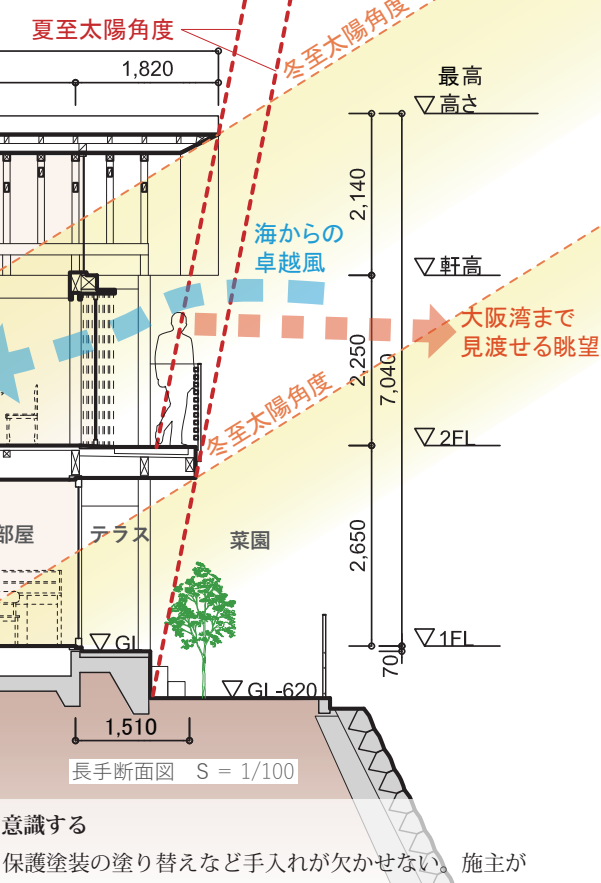
天高 2.2 Mの玄関に入ると漆喰壁の突当りに階段が見える



長手断面図 S = 1/100



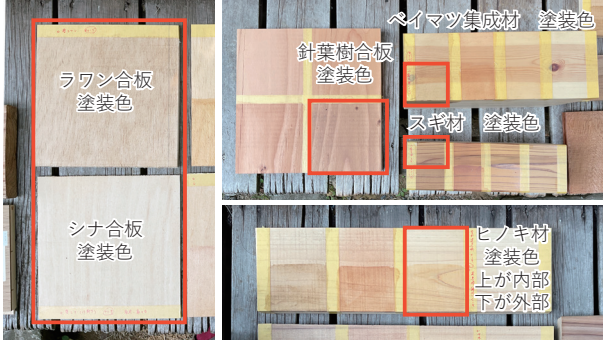
軽やかな木造屋根架構を見あげながら細い階段を上る



階段を上って初めて大阪湾まで見通せるビューが眼前に



階段を上って初めて大阪湾まで見通せるビューが眼前に



木材の塗装色は全て試し塗りを行って決めた

木の使い分けダイアグラム			
現し構造材 兵庫県産スギ ベイマツ集成材 ※構造強度による使い分け	仕上材 ヒノキ シナ合板	仕様部位	樹種
遠くから見る 針葉樹合板 (リビング天井)	直接触れる シナ合板 (家具) ヒノキ (天板) カラマツ合板		
動的・粗い EX. LDK・脱衣室・パントリー 節が多い はっきりとした木目	静的・繊細 EX. 寝室・書斎 節が少ない 木目が目立たない	仕様部位	塗装
外部 濃い色 (茶系) ※耐久性を考慮	内部 薄い色 (黄色系) 透明		



南側外観見上げ。手すりには木の目隠しルーバーを設けた